

Lesson 1 The Teddy Bear Project 題材の背景

クマちゃんの目を通して異文化を楽しもう！
テディベアで国際交流 ~ メールが結ぶ友情のきずな

Revised Edition Sunshine English Course I は、21 世紀のグローバル社会に発信しようとする高校生に向けて、異文化理解や異文化コミュニケーションについて多くの題材を扱っています。まず Lesson 1 は、日本人高校生・友美と彼女の通う学校の ALT である Cathy との会話から始まります。

題材内容

ぬいぐるみ（人形）を介して海外の学校と e-mail を使って交流を図るテディベア・プロジェクトを通して、生徒同士の国際交流を深めていきます。交換留学生の代わりに人形を送り合って、日本とオーストラリアで人形の目から見たお互いの生活や文化、様々なことを英語で伝えあうことができます。

以下の題材背景は、ジェイアーン（グローバルプロジェクト推進機構）のホームページから引用させていただきました。（文末の注を参照）

テディベア・プロジェクトって何？

くまのぬいぐるみを「留学生」として交換し、お互いの地域の様子を学習するプロジェクトです。アイアーンが提供する 150 以上のプロジェクトの中で、創造性や言語力を身につけるプロジェクト（Creative & Language Arts Projects）として、とても人気のあるプロジェクトの一つです。海外旅行が盛んになり、修学旅行で海外に出かける高校も珍しくなくなりましたが、実際に学校間での交換留学はそれほど多くはありません。そこで、交換留学生の代わりに、人形を送り合って交流します。対象は小学校から高校まで、全ての学年です。具体的なプロジェクト紹介や実践事例は以下の URL を参考にしてください。

日本語版 <http://www.jearn.jp/iEARN/teddyinmie/>

アイアーン WEB <http://www.iearn.org/projects/teddybear.html>

連絡先 office@jearn.jp

具体的には？

交流相手の学校とテディベアのような人形を送り合います。日本からなら、キティちゃんでもいいでしょう。

人形には名前を付けて送りましょう。日本人らしい名前を考えてください。

簡単に交換留学生を送り合うことができないので、その代わりに、留学生として送るのです。人形は留学生ですから、届いたら歓迎会をしてあげるのもいいでしょう。その様子を相手校に写真も入れて、知らせてあげましょう。

それから、みんなは順番にこの「留学生」を自宅につれて「ホームステイ」させます。ホームステイを引き受けた生徒は、その日一日、「留学生」が見たこと、体験したことを人形に代わって日記に書いてください。一緒に授業を受けた様子、給食を食べている様子、街へ遊びに行った様子。デジカメを持って歩けば、言葉以上のインパクトも生まれますね。日記の内容は英訳して、定期的に相手校に送りましょう。

普通に「日本を紹介してみよう」ではできないような、日本の街や文化の紹介が盛りだくさん。お互いにたくさんの疑問が出てきて、いろんな質問を送りあえることでしょう。

交流校と最初に決めた交流期間が終われば、留学生は元の学校に帰します。そのとき、人形は日記帳を持って帰るのです。その国の思い出がいっぱい詰まった日記帳です。

このほか、上手に交流するヒント（プレゼント、衣装、電子掲示板など）や今までテディベア・プロジェクトに参加した学校の事例がアイアーンのホームページにあります。事例を参考にして、いろいろアイデアを練ってください。

（注）

アイアーン（iEARN：International Education and Resource Network）

世界約 115 の国と地域，2 万校，約 100 万人の子どもたちから成る NPO（特定非営利活動法人）。

ホームページ：<http://www.iearn.org/>

ジェイアーン（JEARN：Japan Education and Resource Network 正式名称は「グローバルプロジェクト推進機構」）。世界最大の国際教育ネットワーク，アイアーンの日本センターとして，日本で初めての本格的な国際協働プロジェクトを推進する教育 NPO。

ホームページ：<http://www.jearn.jp/japan/>